

# 『花の島』礼文島で希少海鳥（ウミガラス・ウミスズメ・ケイマフリ等）の繁殖調査 報告書

北海道海鳥保全研究会

## 1. 調査目的

礼文島のスコトン岬の沖 1km に位置するトド島（図 1）でケイマフリ・ウミガラス・ウミスズメ・ウトウの繁殖調査することにより、礼文島の希少海鳥の繁殖地としての実態を明らかにする。

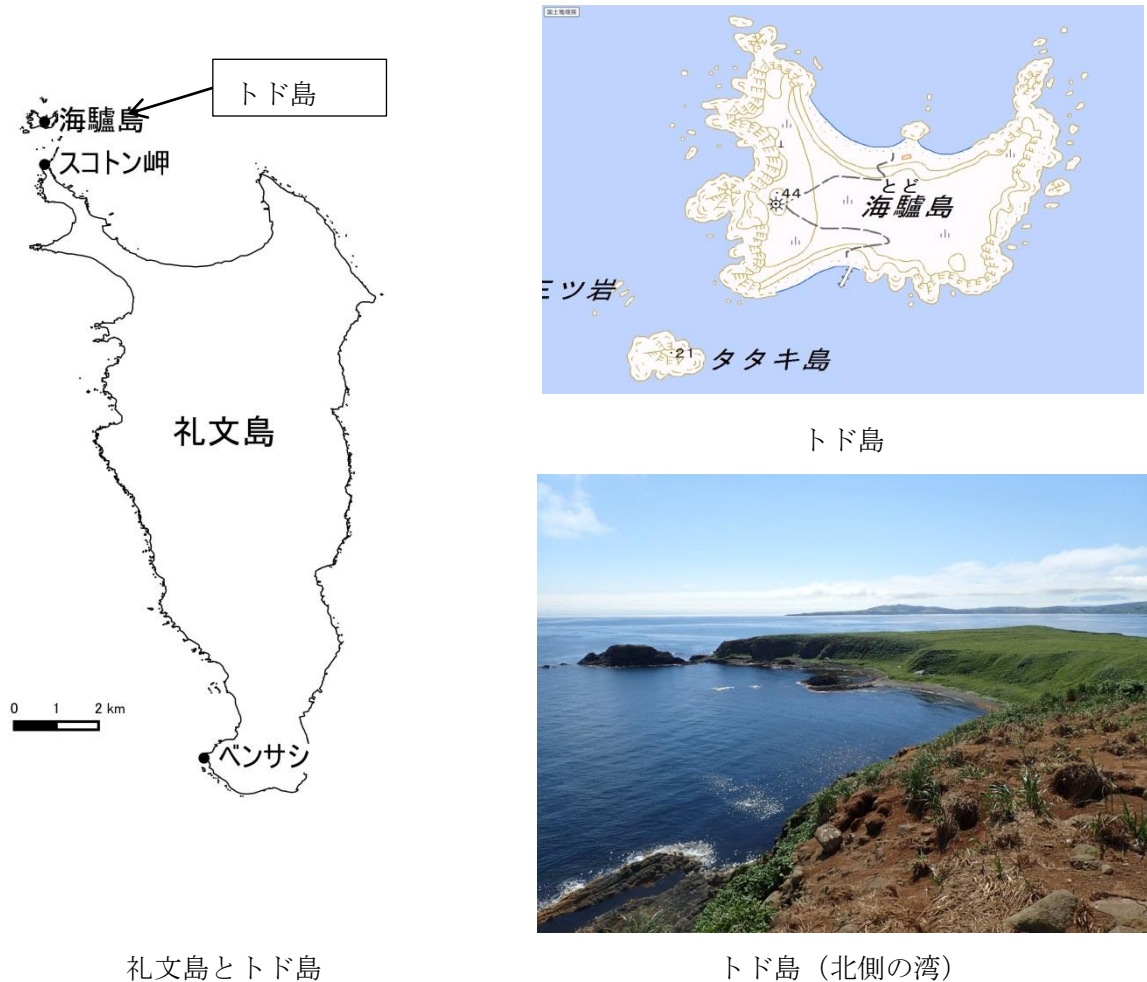


図 1 礼文島海鳥繁殖地の位置

## 2. 調査方法

### （1）ケイマフリ・ウミガラス

#### ① 個体数調査

抱卵期前の個体数が最大となる 5 月に、トド島周辺海上を船で回るか、スコトン岬から双眼鏡や望遠鏡を用いて個体数を数えた(図 2)。

#### ② 餌運び調査

育雛期（6-7 月）にトド島また周辺海上またはスコトン岬から望遠鏡や望遠鏡を用いて餌運び個体を探した。



図2 スコトン岬(左) 、トド島(右) から望遠鏡を用いた調査

## (2) ウミスズメ

### ①日中個体数調査

繁殖期(5-6月)にトド島周辺海上を船で回るか、スコトン岬から望遠鏡を用いて個体を探した。

### ②夜間個体数調査

巣立ち期と思われる6月にトド島周辺海上を船で回り、強力ライトを用いて探し、鳴き声を聴いた(図3)。



図3 夜間の海上でライトセンサス

## (3) ウトウ

### ①餌運び調査

育雛期(6-7月)の20:00-21:30に、トド島西側の2箇所では夜に帰巢するウトウをタモ網で捕獲または落とした餌を拾い、ヒナに持ち帰る餌を採取した(図4)。

### ②ヒナ調査

トド島西側1箇所と中央部1箇所では育雛期(6-7月)に巣穴から雛を取り出し、体重や翼長を計測し、成長の度合いを調べた(図4)。計測したヒナは速やかに巣に戻した。

### ③ 巣立ちヒナ調査

巣立ち期（7月）の日中にトド島周辺海上を船で回るか、夜にトド島でライトを照らし巣立ちヒナを探した。



図4 繁殖地でウトウの帰巣を待つ（左） 巣穴の中にあるヒナを探す（右）

### ④ 夜間行動調査

7月の夜間に赤外線定点カメラを1台設置し、夜間の行動を記録した(図5)。カメラは5分おきに赤外線（温血動物）を感知すると10秒間赤外線ビデオ撮影する設定とした。また、手持ちの赤外線ビデオカメラでも真っ暗な状態で夜間のウトウの行動を記録した。



図5 赤外線ライトを搭載した定点カメラ

### 3. 調査日程

トド島での調査は5月に2日間、6月に4日間、7月に5日間の合計11日間行った(表1)。

表1 調査日程

調査日	調査 開始	調査 終了	調査地点	ケイマフリ	ウミガラス	ウミスズメ	ウトウ	調査内容
2016/5/9	17:30	19:30	トド島沿岸	○	○	○		個体数
2016/5/10	4:00	6:30	スコトン岬	○	○	○		個体数
2016/6/5	18:00	19:30	トド島沿岸	○	○	○		個体数
2016/6/5	20:00	21:30	トド島				○	餌運び
2016/6/5	22:00	22:30	トド島沿岸			○		夜間調査
2016/6/6	4:05	5:30	スコトン岬	○	○	○		餌運び
2016/6/19	9:30	10:00	トド島沿岸	○	○	○		餌運び
2016/6/19	10:55	17:50	トド島	○				餌運び
2016/6/19	10:55	17:50	トド島				○	ヒナ
2016/6/19	20:00	21:30	トド島				○	餌運び
2016/6/20	5:15	6:45	スコトン岬	○	○			餌運び
2016/7/10	18:00	19:30	トド島沿岸	○	○			餌運び
2016/7/10	20:00	21:30	トド島				○	餌運び
2016/7/10	21:30	22:30	トド島				○	巣立ちヒナ
2016/7/10	20:00	3:00	トド島				○	夜間行動
2016/7/11	4:20	10:30	トド島	○	○			餌運び
2016/7/11	12:00	13:00	トド島				○	ヒナ
2016/7/11	13:50	17:00	トド島	○	○			餌運び
2016/7/12	6:00	6:30	スコトン岬	○	○			餌運び
2016/7/16	18:00	19:30	トド島沿岸	○	○			餌運び
2016/7/16	20:00	21:30	トド島				○	餌運び
2016/7/16	21:30	22:00	トド島				○	巣立ちヒナ
2016/7/17	4:30	5:30	スコトン岬	○	○			餌運び



#### 4. 調査結果

##### (1) ケイマフリ・ウミガラス

###### ① 個体数調査

ケイマフリは最大7羽（5月10日）、ウミガラスは最大4羽（7月10日）を数えた(図6 表2)。目撃場所のほとんどがトド島の西海岸とその沖合だった。目撃した時間帯は早朝(4:00-7:00)と夕暮れ時(18:00-19:30)がほとんどで、6月19日、7月11日は日中にも調査を行ったが、姿はほとんど確認されなかった。



ケイマフリ 2016年6月5日



ウミガラス 2016年7月11日

図6 トド島周辺海上で発見したケイマフリとウミガラス

表2 ケイマフリ・ウミガラス個体数

調査日	目撃地点	ケイマフリ	ウミガラス
5月9日	トド島西側沿岸	0	0
5月10日	トド島西側沿岸	7	1
6月5日	トド島西側沿岸	4	0
6月6日	トド島西側沿岸	1	0
6月19日	トド島西側沿岸	2	1
6月20日	トド島西側沿岸	3	0
7月10日	トド島西側沿岸	0	4
7月11日	トド島西側沿岸	5	2
7月12日	トド島西側沿岸	3	0
7月16日	トド島西側沿岸	2	0
7月17日	トド島西側沿岸	3	0

###### ② 餌運び調査

餌運びや繁殖地への上陸など繁殖に伴う行動はケイマフリ・ウミガラスともに確認されなかった。

## (2) ウミスズメ

### ①日中個体数調査

ウミスズメの姿は確認されなかった。

### ②夜間個体数調査

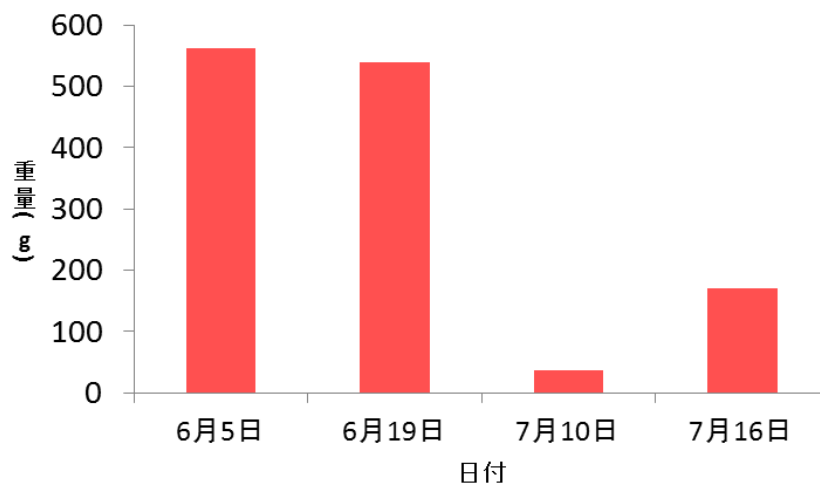
ウミスズメの姿や鳴き声は確認されなかった。

## (3) ウトウ

### ①餌運び調査

育雛期の6月5日、6月19日、7月10日、7月16日の20:00-21:30に、夜に帰巢するウトウをタモ網で捕獲し、ヒナに持ち帰る餌を採取した。採取した餌の量は6月19日が最も多く、7月平均餌重量は7月16日が最も多く、7月10日が最も少なかった(図7)。帰巢するウトウのうち餌を持っていた割合は6月に多く、7月に少なかった。

#### A. 総重量



#### B. 1回ごとの平均重量

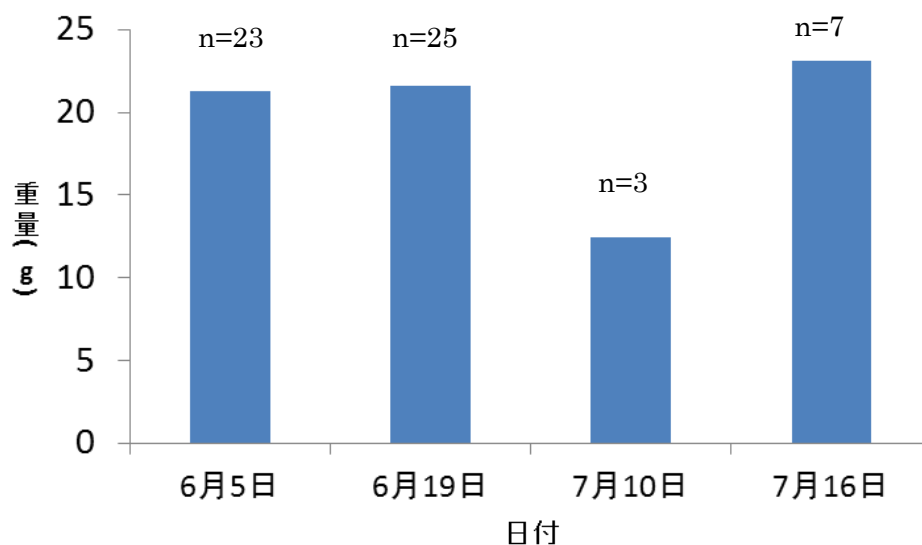


図7 ウトウが持ち帰った餌のA. 総重量とB. 1回ごとの平均餌重量

採取した餌の重量は、6月5日はホッケ稚魚とイカナゴ、6月19日はホッケ稚魚、7月10日はスルメイカとスケトウダラ稚魚、7月16日はスルメイカとカラフトシシャモが多く、(図8)、クジメ稚魚、サンマ稚魚、カジカ科、イトヨ、サケ稚魚が確認された(図9)。

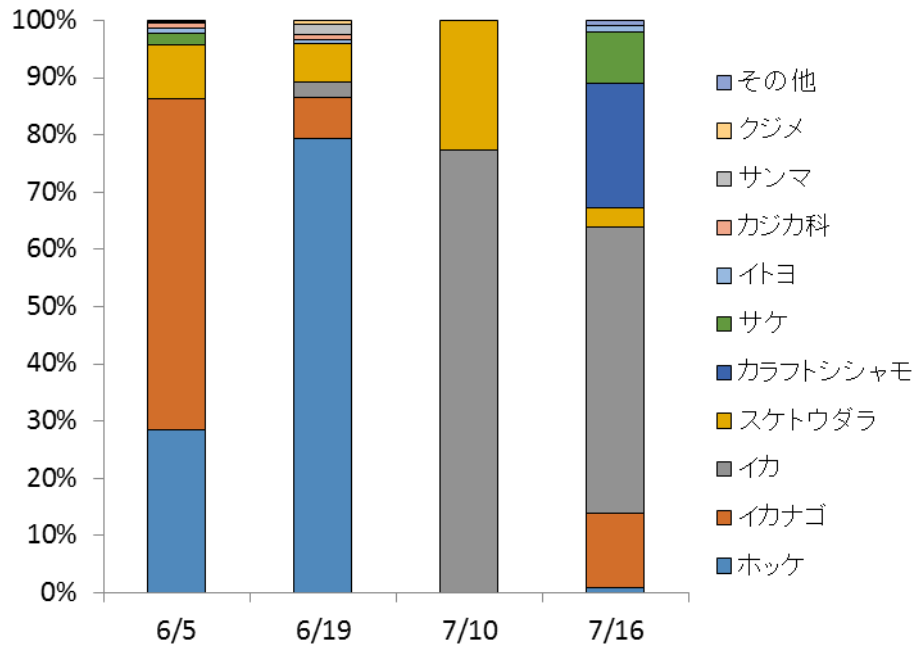


図8 ウトウがヒナに持ち帰った種ごとの餌の重量の割合





ホッケ稚魚



スケトウダラ稚魚



イカナゴ



スルメイカ



カラフトシシャモ



サケ稚魚



イトヨ



カジカ科

図9 ウトウがヒナに持ち帰った餌の種



## ②ヒナ調査

18羽のヒナを捕獲し計測した結果、平均翼長が55cm、最小個体で29cm、最大個体で118cm、平均体重は147g、最小個体で69g、最大個体で254gだった(図10)。6月中旬の時点の成鳥具合としてはとしてはばらつきがあるものの良好だった。



図10 ウトウヒナ 2016年6月19日

## ③巣立ちヒナ調査

7月16日にトド島の周辺海上で巣立ちヒナを1羽目撃した(図11)。陸上では発見されなかった。



図11 ウトウ巣立ちヒナ 2016年7月16日

## ④夜間行動調査

赤外線定点カメラで7月10日の20:00から3:00まで設置した結果、ウトウの成鳥を24回撮影した(図12)。撮影した時間帯は多くのウトウが帰巣後の21-22時台が最も多かったが、出巢前の0-2時台は少なかった(図13)。



図 12 赤外線定点カメラで撮影したウトウ成鳥

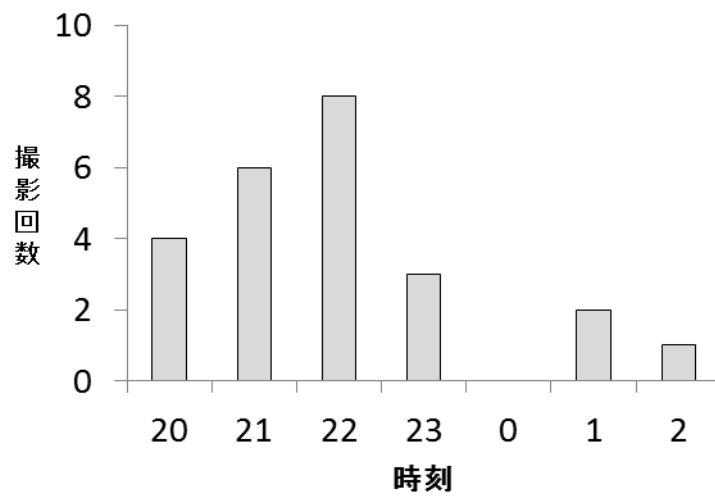


図 13 赤外線定点カメラによるウトウ撮影回数

また手持ちの赤外線ビデオカメラで7月11日の22:30-23:00にウトウ成鳥を撮影した結果、警戒されずに近くから撮影することができた。ウトウはかなりの高密度で繁殖地に生息していることがわかった(図14)。

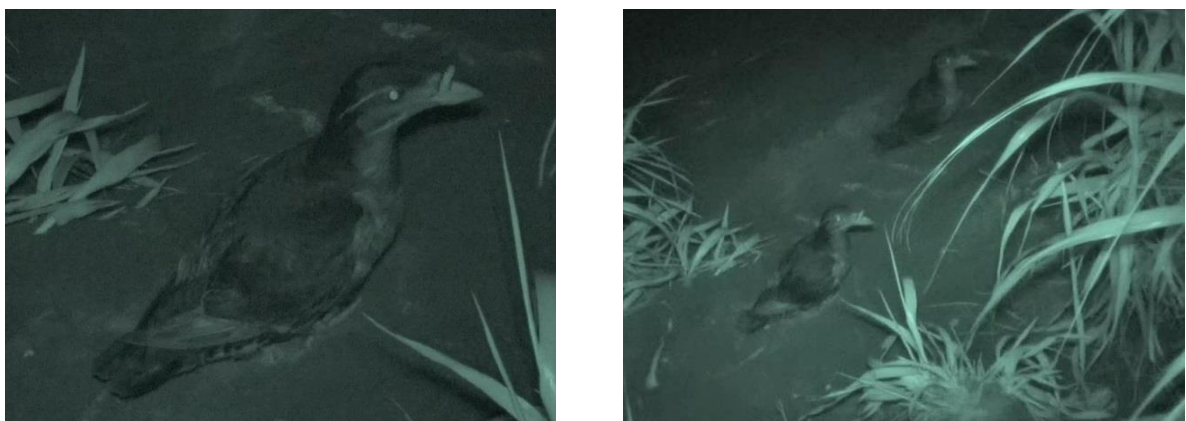


図 14 赤外線定点カメラで撮影したウトウ成鳥